



アイヌ語で「広場」の意味  
 文 北原 次郎太  
 絵 小笠原 小夜

— インソレ、こんにちは。ベースギターを演奏するんですね。楽器は好きですか。  
 — 担任の先生が、学芸会のときにいろいろ教えてくれて、楽しくなりました。その時は木琴も練習しました。ベースギターは知り合いの辺泥さんにも教わっています。  
 — 先日、大勢の人の前で演奏していましたね。カッコ良かったですよ。  
 — 友達にさそわれました。あまり人前でひいたことがなく、すごく緊張しました。あの時のひいたのはスーパードライの曲です。  
 — 学校では何が楽しいですか。  
 — 体育が好きです。この前、バスケットをやったときが楽しかった。家にいるときは友達とゲームをしたりして遊びます。  
 — アイヌ語の勉強もしているんですね。

ヘカチ マツネカチ

広野の大地くん(小6)

釧路市阿寒町

アイヌ語のお話を発表

「イタカンロー」というアイヌ語で話すイベントに6回出ました。去年は「怪鳥フリユ」というお話を発表しました。アイヌ語のほかに、おどろも練習しています。ちょっと好きになってきました。上手になるのが楽しみです、がんばりたいです。  
 — 将来はどんなことをしたいですか。  
 — ベースは続けていきたいです。自分を買ったとき、とてもうれしかったから。  
 — 読者に伝えたいことはありますか。  
 — 阿寒湖に来てほしいです。マリモトか、すごい自然があるので、見てほしいです。  
 — イヤイライケル。ありがとうございます。

読んでみよう

アイヌ語には日本語にない音があります。これをカタカナで書くときには字を小さくして表します。このページのタイトル「ミンタラ」の「ラ」もそうです。小文字は全部で14種あります。今月から毎回、そのいくつかの読み方をしょうかいたします。

今回は「ア」です。例えば「チェア」(魚)、「チュア」(月・太陽)、「チア」(ふね)という単語などに使われます。発音する時にはゆっくり「チェッ」というつもりで、くちびるがとじた所で止めます。

「ア」の発音を動画でも学べます。出演は日高管内平取町二風谷出身の高校3年、関根摩耶さん。指導は千葉大学文学部教授の中川裕先生です。スマートフォンを持っている人は、QRコードから読みこんでください。



失人たちの物語 シンリッオロツペ

監修 佐々木 利和

樺太の他民族からも尊敬

北海道の北、樺太島(オホリン島)は南北に長い島で、地元のアイヌ語ではヤンケモシリといいますが、島のおおよそ南半分はアイヌ民族が暮らし、北の方にはウイルタ民族、ニブフ民族のほか、いくつかの民族がくらししてきました。  
 樺太東海岸のシンラオロという村に、ノテカリマという男性がいました。松浦武四郎が1846年におとすれたときは75、76歳で、ひげは赤く髪は真っ白で風格のたまたま老人でした。  
 ノテカリマはとても立派な人物として知られておりました。樺太南端のシレトコ村からタライカ村まで東海岸のアイヌ民族、さらには北方の他の民族からも尊敬を集めていました。ノテカリマが一声かければ、千人以上が動いたといわれています。  
 当時の樺太にも、和人とアイヌ民族が交易(取引)をする場所がありました。また、漁業者がやってきて、サケやニシンなどをとってました。和人だけでは人手が足りず、アイヌ民族を集めて働き手とするのがよくありました。  
 和人の中には強引に言うことを聞かせようとする者もいて、みんな困っていました。でも、交易や漁の仕事に行きたがらない人をノテカリマがかくまうと、和人たちも言えませんでした。  
 こうした話を聞いて、西海岸からもにげてくる人々がいました。ノテカリマのところにげこんだらと知ると、追ってきた和人たちも仕方なく引き返しました。  
 武四郎が次に樺太に行った時にはノテカリマは亡くなっていました。東海岸の人々はクシュンコタン(大泊、コルサコフ)で働かされ、みんなノテカリマの時代をなつかしんでいたといえます。  
 武四郎はこの時、ノテカリマの孫にあたるウイキシユと会いました。ノテカリマの威厳を受けついで立派な青年だったそうです。  
 (敬称略。人名などは武四郎が書いたものに従っています)



すぐれたリーダー ノテカリマ (江戸末期)

樺太島にアイヌ民族がくらししていたことが分かる一番古い記録は1264年のものです。  
 樺太のアイヌ民族は、北海道のアイヌ民族ばかりではなく、樺太北部やアムール川のさまざまな民族とも交流し、かれらからは「クイ」と呼ばれてきました。今でも中国の地図では樺太島のことを「庫頁島」と書いています。  
 江戸時代より昔は、いろいろな地域の和人がアイヌ民族と交易をしました。1604年に松前藩ができるまで、和人の中のだれかがアイヌ民族と交易できるのか、はっきりと決められるようになりませんでした。交易した「もうけ」が武士たちの給料になります。  
 やがて武士たちは商人に交

北方や大陸とも交流

易をまかせて、料金をとる仕組みをつくりました。商人たちは交易だけでなく、禁止されていたはずの漁を行い、さらにはアイヌの男女を強引に連れてきて働かせるようになりました。その多くは超「ブラック企業」でした。  
 こうした漁を行う場所を漁場といいますが、6月24日のミンタラでもしょうかしましたね。樺太は松前から遠かったこともあり、漁場がつくれるのは北海道より遅く、18世紀後半のことですが、やがて北海道と同じような状況になってしまいました。  
 ノテカリマは弱い人々を守り、他の民族が和人と交易に行くのも助け、道案内の人を同行させました。

